

## 2-1 名詞

### 1 可算名詞と不可算名詞

英和辞典で名詞を引くと、たいいてい単語の意味の前に㊦とか㊧とかいう記号があります。あれはその名詞が「可算名詞 (countable noun)」か「不可算名詞 (uncountable noun)」か、という区別を示しています。この「可算名詞/不可算名詞」は「数えられる名詞/数えられない名詞」とも呼ばれます。でも「名詞が『数えられる』」っていったいどういう意味なのか考えたことがありますか？

そこで質問です。「本」(book) は「1冊、2冊」と数えられますが、では「アドバイス」(advice) はどうでしょう？ これも1つ、2つと数えられそうです。しかし、ここが肝心です。英語の名詞の可算/不可算はそうやって実際に数えられるかどうかで判断してはいけません。英語の advice (アドバイス) は不可算名詞なので数えられません。なぜですか？ いえ「なぜ」と考えてはいけません。そう決まっているのです。皆さんが英語の先生に、複数のアドバイスを列挙してみせて、「先生、アドバイスは1つ、2つ、...って数えられますよ」と説得したところで、advice が「数えられない」名詞であることは変わらないのです。(ちなみに advice の数をいう必要がある場合は、piece という名詞の助けを借りて、a piece of advice, two pieces of advice ... のように数えます) 何が可算名詞で何が不可算名詞かは一つ一つ覚えるしかありません。

したがって、英語を学習する上では「可算か不可算か迷いやすいもの」をとりあえず覚え、それ以外は辞書で確認するのが現実的だと思います。以下に、代表的な不可算名詞をあげておきます。(この中には意味によっては可算名詞になるものもあります)

advice (アドバイス) / baggage (荷物) / equipment (機器) / fun (楽しみ) / grass (草) / furniture (家具) / hardware (ハードウェア) / homework (宿題) / information (情報) / news (知らせ) / progress (進歩) / software (ソフトウェア) / weather (天候) / work (仕事)

ちなみに、この表の中にある furniture (家具) に相当するフランス語の meubles は可算名詞です。なので、フランス人が英語を書くとき、うっかり furnitures と複数形にしてしまう誤りがあるそうです。英語とフランス語のような同じヨーロッパの言語でも同じ意味の単語で可算/不可算の違いがあるということは、これをイメージとか理屈で説明するのはやはり無理があるようです。

### 2 単数と複数

さて、可算名詞は1つ [1人] の場合と、2つ [2人] 以上の場合で単語の形が変わります。といっても、たいいていは、2つ以上の場合に、最後に s とか es を付けて、次のような形にします。

a dog → dogs

a church → churches

この「2つ以上の場合のときに使う名詞の形」が「複数形」、1つの場合の形 (辞書の見出しにはこの形が載っています) が「単数形」です。注意することは次の2つです。

① 不可算名詞には (数えられないのだから) 複数形はない!

もし不可算名詞に -s がついているように見えたなら、それは可算名詞として使われています。たとえば、work は「仕事」の意味では不可算名詞なので、もし a lot of works という英語を見たら、それは work が可算名詞であり、work には可算名詞で「作品」の意

味があるから「多くの作品」という意味だろうと見当をつけます。

② 英語には単数形と複数形が同じ形をした単語があって、その形は一般に「単複同形(たがひなひ)」といわれる。

たとえば、sheep (羊) は1匹なら a sheep、10匹いれば ten sheep で、sheep に -s はつきません。また means (手段) という単語は、単数形も複数形も means です。Language is a means of communication. (言語は意思伝達の手段である) という文を見て、「なんで複数形 means に a がついているんだろう」なんて思わないように。この means は元から語尾が -s で終わっている単数形の名詞です。

さて、次の例文を見てください。

- (a) We made **friends**. (私たちは友達になった)  
 (b) They exchanged name **cards**. (彼らは名刺を交換した)

(a) の make friends は「友達になる」という慣用句ですが、友達になるには人間が最低2人必要ですし、(b) も交換という行為をするためには、交換する物は複数のはずです。このように、慣用的に複数形で使われる名詞の複数形は「相互複数」と呼ばれます。

### 3 意味による名詞の分類

名詞を、上にあげた文法上の「可算/不可算」という分類以外に、どんな種類のものを表しているのか、意味によって分類すると次頁上の表のようになります。

なお、同じ名詞でも、意味によって表中の①～⑤が変わることはよくありますから「変だな？」と思ったら辞書を引いて確かめましょう。ためしに、次の例文を見てください。

- (a) I need a lot of paper.  
 (b) I found interesting articles in local papers.

① 普通名詞	目に見える、形のある「物」を表す名詞。 【例】 a notebook (ノート), scissors (はさみ) ※ただし、目に見えない、形のないものでも、1つのまとまった概念や行為などで普通名詞に分類されるものもある。【例】 a minute (分), an idea (考え), a dream (夢), a trip (旅行)
② 集合名詞	同じ種類のものがまとまって1つのグループになっているものを表す名詞。 【例】 audience (聴衆), staff (スタッフ)
③ 物質名詞	その名のとおり、物質名や材料名などを表す名詞。 【例】 water, cheese, milk, soap
④ 抽象名詞	形のない、目に見えない、概念や物事の性質などを表す名詞。また、動作や状態を表す語も含む。 【例】 happiness (幸福), education (教育)
⑤ 固有名詞	人名、地名、曜日・月などを表す名詞。常に最初の文字を大文字で書くのが特徴。 【例】 Chopin (ショパン), Japan, Monday, February

\*

(a) は「紙」なので③物質名詞で、紙が山のようにあっても複数形になりません。(b) は「私は地元の各紙に面白い記事を見つけた」の意味です。paper は「新聞」の意味のときは①普通名詞で、2紙以上あれば複数形になります。

上の①～⑤と、可算・不可算の関係は、原則以下のとおりです。

	可算	不可算
① 普通名詞	○	
② 集合名詞	○	○
③ 物質名詞		○
④ 抽象名詞		○
⑤ 固有名詞		○